



安全で安心な水の安定供給を！

広報山武水道

<http://www.water-sansui-ki.jp/>

発行：企画財政課企画班
〒283-0062
東金市家徳 361-8
TEL 0475-55-7851
FAX 0475-55-7856

平成23年度業務量	
給水人口	166,033人
給水戸数	62,580戸
年間給水量	19,033,140 m ³
有収率	90.3%

平成24年3月末現在

平成23年度決算が認定されました

平成24年8月24日に開催された企業団議会8月定例会において、平成23年度の決算が認定されました。本年度は、平成22年12月に策定した「地域水道ビジョン2010」(平成23年度～平成32年度)及び「山武郡市広域水道企業団中期経営計画」(平成23年度～平成27年度)に基づき、安全で安心な水を供給するため、経営基盤を強化するとともに、水道施設の整備を図りながら安定給水の確保に努めてまいりました。

業務状況につきましては、本年度末の給水人口が166,033人で普及率は92.9%となり、年間総給水量は19,033,140m³で、前年度と比較して150,790m³の減、年間有収水量は17,182,421m³で464,823m³の減となり、この結果、有収率は90.3%となりました。

主要な建設改良事業につきましては、配水管布設事業、配水管改良事業、配水管移設事業を行い、8億9千万円支出し、延べ14,726.8mの配水管を布設したほか、電気設備更新事業として東金配水場電気設備改修工事を行い3千8百万円支出しました。

財政状況につきましては、収益的収支(消費税及び地方消費税抜き)において、総収益が47億9千4百万円、総費用が46億8千3百万円で、当年度純利益は1億1千百万円となり、これを前年度繰越欠損金10億9千2百万円から差し引いた残額の9億8千百万円は、未処理欠損金として翌年度に繰り越しました。

資本的収支(消費税及び地方消費税込み)においては、国庫補助金及び工事負担金の9千7百万円を財源として、建設改良費等に11億3千5百万円支出し、不足額10億3千8百万円は内部留保資金などで補填しました。

以上が決算の概況でございますが、今後とも社会経済情勢の変化による水需要の動向等見据えながら、経営の健全化を推進していくとともに、より質の高い給水サービスの実現を目指し、なお一層の経営努力を重ねてまいります。

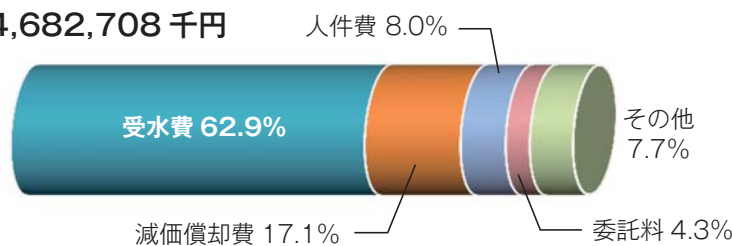
収益的収支

水道水を家庭までお届けするために必要な費用や財源

収入 4,793,872 千円



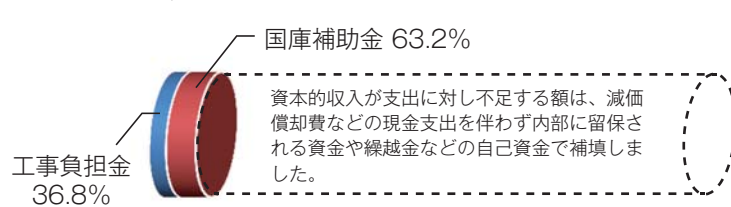
支出 4,682,708 千円



資本的収支

水道施設を新たに建設したり、整備・改良するために必要な費用や財源

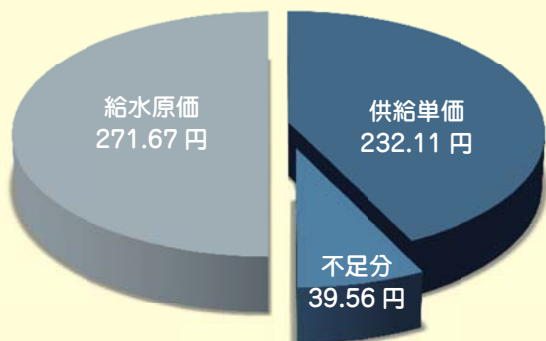
収入 96,823 千円



支出 1,135,265 千円



山武水道の料金について (水 1 m³の経費と収益)



1m³とは?
2リットルのペットボトル



給水原価とは 有収水量 1 m³当たりの費用
供給単価とは 有収水量 1 m³当たりの収益
有収水量とは 料金徴収の対象となった水量

水道料金は、法により「適正な原価に照らして、公正妥当なものであること。」とされています。ここでいう原価とは「給水原価」(有収水量 1 m³当たりの費用)をいいます。

山武水道の「給水原価」は、給水区域内に取水可能な水源(表流水、地下水等)がないため、利根川を水源とした九十九里地域水道企業団から浄水を購入(受水)し、各家庭へ水道水を供給していることから地下水を水源とする事業体に比べ割高となっています。【受水費：費用の約 63%】

加えて、総面積約 300 km²(千葉県総面積約 5,156 km²)といった広大な給水区域の全域に水道水を供給するため、創設時に大規模な配水施設の建設を行ったことで、これら資産の減価償却費に莫大な費用が必要となります。【配水場 4 箇所及び配水管総延長約 1,394km の減価償却費：費用の約 17%】

これら固定的経費は、費用全体の 8 割を超え、給水原価を押し上げる最大要因となっています。

また、左図のとおり、「供給単価」が「給水原価」を下回り、原価回収ができていない状況にあります。

地方公営企業の経営は、経費の支払いに料金収入をもって充てる独立採算が基本原則です。

山武水道は、水道事業という高い公共性に鑑み、不足分 39.56 円を千葉県及び構成市町からの補助金で賄うことで、現在の水道料金を維持しています。

今後も職員一丸となり、経費削減に努めてまいりますので、ご利用の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

1 m³当たりのペットボトルとの比較

